

東京家政大学は ピンクリボン運動を推進します

ピンクリボンは、アメリカから始まった乳がんの早期発見・早期診断・早期治療を促す啓発運動のシンボルマーク。乳がんはライフスタイルや食生活の変化により日本でも増加傾向にあり、女性がかかるがんとしては最も多く、12人に1人がかかるといわれています。

乳がんは”しこり”によって早期発見が可能ながんと言われています。

東京家政大学では、約6,000人の女性が学ぶ大学の使命として、女子大学としてはじめてピンクリボン運動をスタートさせました。平成21年、当時造形表現学科4年生の学生が、本学に通う学生をイメージしてデザインしたピンクリボンキャラクターが、東京家政大学ピンクリボン運動のシンボルマークです。

ねえ知ってる？
ピンクリボンのこと



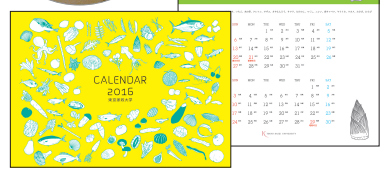
© Tokyo-Kasei Hulip

ピンクリボン運動 1

東京家政大学オリジナルシンボルマーク
飲料自動販売機4台にプリント
売り上げの一部を寄付へ



飲料自動販売機（学内の9号館：保健センター前、16号館：エレベータ前、学寮1号館：談話室、学外の十条駅前）にキャラクターがプリントされ、自動販売機の売上金の一部で東京家政大学オリジナルピンクリボンカレンダーを制作し、啓蒙活動にあてています。



ピンクリボン運動 2

緑苑祭でピンクリボン運動を展開



乳がん月間である10月には、学園祭「緑苑祭」にて、本学のオリジナリティあふれるピンクリボン運動を展開していきます。
平成27年度は、栄養学科学生有志がカフェを出店し、多くの来場者にピンクリボン運動をPRしました。

ピンクリボン運動 3

大学外での活動

東京家政大学と包括提携を結んでいる北区のピンクリボンキャンペーンへの協力や、学生が考案した乳がん予防レシピの配布などを行っています。

